

◎ゆんたししょうら (本調子) 交互に歌う

(石垣市石垣)

※八重山の民謡は、節歌と労働歌の二つに大別される。節歌は、三味線楽譜によつて歌われ、上層階級いわゆる「ユカルピトウ」専有歌であつた。労働歌は「ユンタ・ジラバ・アヨウ」の三種類からなつており、楽器を一切使用せず仕事をしながら、甲乙交互に又は男女交互に歌われる歌で「ユンタ・ジラバ・アヨウ」の語源については色々言われているが、一般的に「ユンタ・読み歌・結い歌」等と言われ、節歌が盛んに歌われ「ゆんた」は忘れがちになっていた。昭和四十一年「大浜安伴先生」が「工工四」を、付け発表し現在は、舞踊も振付られ親しまれている。

(八重山古謡より) (読人知らず) (採譜・大浜安伴)

甲① サーゆんたししょうら「ヒーハーヒー」ヒーじらばしょうら
(ユンタを、歌いましょう、ジラバも歌いましょう)

「サーユイヤーサー」ばがけーらヤウホーナ (以下同じ)
(ばがけーら・私共みんなで合唱しましょう)「全体・皆さんの意」

乙② サーゆんた^{ヌスイ}主・ヒーじらば^{ヌスイ}主・あんなり
(ユンタの主人公も、ジラバの主人公も、別にいるのではない)

甲③ サーいずすすどう・ヒーなみる^{ヌスイ}すどう・主やるい
(歌う者が主人公で「なみるすどう・合唱する」のが主人公である)

乙④ サー我が^バいざば・ヒーみんなむるい・しきみようり
(私が歌うから「みんなむるい・女性全部」聞いて下さい)

甲⑤ サー妻^{トクシ}どうむば・ヒー^{ツイカ}近さから・どうめーせーり
(妻を物色するなら、近い所から、求めて結婚して下さい)

乙⑥ サーみまぎさーば・ヒー^{トウナ}隣るいから・みまぎようり
(みまぎさは・結婚をするなら) 近隣から、妻を求めて結婚して下さい)

甲⑦ サー家持^{ヤム}ついめーが・ヒー^{アラ}歩ぐいから・くていあん
(理想の主婦となる者は、歩き方から人と「くてい・あん」違っている)

乙⑧ サー^{ドウム}胴持ついめーが・ヒー^{ティフ}手振るいから・くていあん
(模範たる主婦となる者は、手の振り方から人と違っている)

甲⑨ サーうり^{ヤム}どううり・ヒー家持ついめーが・やるいうり
(それこそ家庭的な、主婦となる人である)

乙⑩ サーくり^{ドウム}どうくり・ヒー^{ドウム}胴持ついめーが・あるいうり
(これこそ家庭的な、模範の主婦となる人である)

甲⑪ サー誰^タるが^{フア}子で・ヒー^{フア}じりが子で・どうゆたら
(誰の子供で、どなたの子供かと、聞いてみたら)

乙⑫ サー^{イルイスバ}西側ぬ・ヒー^{シユウ}主ぬ^{フア}子ぬ・いついけーま
(西側の家の「シユウ・父」の子供で「イツイケーマ」と言う娘であつた)